

2020年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1492601420	事業の開始年月日	平成31年3月1日
		指定年月日	平成31年3月1日
法人名	株式会社エクシオジャパン		
事業所名	アクア上鶴間グループホーム		
所在地	( 252-0312 ) 神奈川県相模原市南区上鶴間1-12-5		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	9名
		ユニット数	2 ユニット
自己評価作成日	令和3年1月13日	評価結果 市町村受理日	令和2年12月17日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/">http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/</a>
----------	---

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>当施設は、相模大野駅まで徒歩20分、東林間駅まで徒歩20分、16号線から少し入った住宅街にございます。2ユニットは満床で18人の入居者様の生活のお手伝いをしています。笑顔が素敵な入居者様が多く、施設内には笑い声が響いています。職員もその笑顔に引っ張られるように明るく介護に従事しております。まだまだ、チームとしての介護に関しては未熟ですが、日々の経験を糧に、より良い介護を提供できるように努めております。</p>
---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和2年9月15日	評価機関 評価決定日	令和2年10月30日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

事業所は、小田急線「相模大野」駅または「東林間」駅から徒歩20分の住宅街の中にあります。近くにホームセンター、スーパー、コンビニがあり、神奈川県青果市場の北側にあります。設立法人の福祉部門は、神奈川県内で高齢者福祉事業を展開しています。

<優れている点>

職員と利用者の関係が良好で、利用者は穏やかな表情で、職員の明るく優しい話しかけは家族にも好評です。食事は職員が交代で作りと、利用者にはできることを手伝っています。食堂テーブルでは、職員と会話しながら野菜を刻み、盛付をしています。夏祭りのイベントでは、ノンアルコール(ビール、カクテル、日本酒)飲料の一杯飲み会が盛り上がり、利用者は大変喜んでいました。事例検討やヒヤリハット(気づきレポート)の話し合いが定期的に行われ、職員の共有と支援に役立させています。毎月の便り(機関紙)を発行し、利用者の様子は、写真を利用しています。訪問の少ない家族にも、利用者の楽しい様子や安心できる姿を伝えていきます。

<工夫点>

新型コロナの感染に注意するため、近所の散歩は少なくなっていますが、事業所の前で歩行訓練や日当たりの良い場所で外気浴を行い、気分転換に努めています。トイレの使用は、車いす常用者や動きのゆっくりとした利用者があるため、トイレドアを使うだけでなく、並行して、外側カーテンを設置し、声かけや会話をしやすくしています。

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	アクア上鶴間グループホーム
ユニット名	1F

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/>	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	毎朝、朝礼で理念等を唱和し、話し合う時間を共有しています。施設内の会議やフロアごとのミーティングを実施し、何ができるか理念を統一しています。	法人作成の理念・社是・社訓・行動指針を、毎朝日替りで唱和し共有しています。施設内会議やフロアミーティングにおいて、理念等の共有を図り、実践につなげるために話し合う機会を設けています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	コロナの影響で、施設前の歩道で歩く練習をしています。お子様や犬の散歩中のご近所の方々に挨拶する事で、皆様立ち止まって話しをして下さいます。レクリエーションでは、ご近所のお弁当屋さんにご利用様と買い物に行きました。	新型コロナの感染に注意するため、近所の散歩は少なくなりましたが、事業所の前で歩行訓練を行っています。近隣の住民や散歩する人に挨拶をかわし、会話を楽しんでいます。地域ボランティアを受け入れ、演奏や合唱が盛り上がっています。	ボランティアの受け入れやイベント案内が定期的に行われています。地域とのつながりや基盤づくりに、地元自治会への加入が期待されます。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域の方との交流は課題としています。今は特にコロナの影響で、企画も難しい状態です。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議では、ご利用者様、ご家族様も参加して下さいます。動き始めたところですが、これもコロナの影響で自粛している状態です。	ほぼ2ヶ月ごとに開催し、民生委員、高齢者支援センター、利用者・家族が参加し、運営報告、活動説明、質疑応答を行っています。新型コロナの影響を受けて、対面会議式の開催できなくなり、書面上のやり取りとりになっています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	施設長中心に、動き始めようと取り組んでいます。	相模原市南区役所の介護保険担当とは、手続きの問い合わせや事務指導のため連携を図っています。また、同区生活保護担当やケースワーカー、高齢政策課担当者とはグループホームの運営や事業実施について協力関係を構築しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束について、度々研修が開かれています。 新しいご利用者様が外に出てしまう初日、勤務の職員で会議を開き、記録に残して施錠しました。これからも「拘束とは」を考え、勉強が必要と考えています。	事業所の身体拘束適正化のための指針に基づき、身体拘束適正化委員会は、3ヶ月に1回開かれ、また研修やスタッフ会議において、常に主要な議題として徹底を図っています。運営規定には、身体拘束適正化委員会の開催を明記していませんが、身体拘束の防止や施錠のない生活に努めています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	「虐待について」はもちろん、度々施設内会議やフロアミーティングで「尊厳とは何か」を考え、話し合っています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	権利擁護の制度については、深く理解しているのは管理者、一部の職員のみになっています。研修を開催し、全職員が理解し対応できるようにと考えています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約の際には、文章に基づき、実例や理解しやすい表現等を用いて説明しています。また、できる事できない事も契約時に伝え、了承いただいています。不明点があった場合には、遠慮なく聞ける雰囲気づくりをしています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	日々の生活や面会の際にも、随時要望を聞き入れる様な雰囲気づくりを心がけています。 運営推進会議には、多くの方が出席できるように日程を調整し、事前に案内しています。	利用者や家族とは、事業所の生活や面会時、また運営推進会議において、意見・要望を聞き、運営に反映させています。災害時の備蓄品(特に米)や災害グッズの整備、事業所への進入路の雪かきの改善などが生かされています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月一回のフロアミーティングには、管理者も必ず出席し、情報提供や意見交換を行っています。 また、年二回の個人面談時にも、意見を表出できる様に係わっています。	管理者は、職員へ日常的に声かけし、月1回のフロア会議に出席し、運営に関する職員の意見や要望を聞いています。職員の個人面談（年2回）でも職員の意見を聞く機会を設けて、夜勤体制の見直しやイベント内容の点検を行っています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	本社総務と連携を図り、働きやすい職場環境を目指しています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	個人面談時等、職員本人の希望も聞き入れながら、一人一人の職員にあった研修を選び、参加できる様にしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	行政主催や地域の連絡会等に参加し、サービスの質向上を図っています。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	ご利用者様本人が今何を求め、何を考えているのか、行動や話しをよく聴き、理解しようと努めています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご家族様もご利用者様本人も考えに違いがありますので、それぞれの想いをしっかり受け止め、要望に応え、対応しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談時に、ご家族様やご利用者様本人に何が必要かを見極め、できる限りの対応しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	年長のご利用者様からたくさんの学びがあり、職員の鑑になっています。褒めてくれたり、声をかけてくれたり、お互いが穏やかに生活できるよう、良い関係を築いています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族様との情報交換で、ご利用者様の今の様子を詳しく伝えたり、ご家族様の想いを聞いたり、ご利用者様本人とご家族様との潤滑油になるように心掛けています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	昔の職場でのポジションなど話してくれたり、スポーツをやった相手との出来事など、思い出をそのまま受け止め、長期記憶の支援に努めています。	大切にしてきた友人や出来事について、本人との関係が切れないように、馴染みの人・場所の提供や出会いや思い出話を大切にしています。新型コロナの影響で、墓参り、外食、美容院など少なくなりましたが、友人・知人訪問は、短時間（15分）の設定とし、支援に努めています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	不安になっているご利用者様の話しを聴いたり、相談に乗り、職員が間に入って支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	これまでの生活環境を尊重し、情報交換しながら支援するように努めています。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の生活の中で、一人一人の想いを受けとめるよう努めています。ご利用者様の意向を職員間で話し合います。ご家族様と話し、情報を得るようにしています。	日常の生活の中で、一人ひとりの思いや希望・要望を把握しています。事業所前の運動や入浴時に、思いや意向を把握し、フロア会議やケアカンファレンスで共有しています。言葉で伝えにくい利用者には、その行動や表情・しぐさから意向を読み取るように努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	以前までどのような生活をしていたかを、ご利用者様本人やご家族様に伺い、本人らしく生活できるように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日常生活を送る上で、ご入居者様のできる事を行っていただき、リズムを把握するよう努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ケアプランに沿って行っています。日々新たな気づきがあり、職員全員がカンファに出席できる様にし、意見交換を行っています。ご家族様が訪問時に意向を伺い、介護計画に反映しています。	ケアプランの見直しは、気づきノートや連絡ノートの情報を確認し、利用者や家族、関係者と話し合い、担当者会議、ケアカンファレンスを行っています。6ヶ月ごとにケアプランを見直し、現状にそくした介護計画を作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	ご利用者の様子などを、連絡ノート、気づきノートに記録し、勤務前に確認を義務付けています。申し送りも行い、情報を共有しています。情報を共有し、チームケアで活かすことが今の課題です。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	開放的で、訪問しやすい事業所を目指しています。自由に行き来できるとご利用者の生活にメリハリができ、閉鎖感のない支援ができると良いと考えています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	近隣の買い物や散歩を通して、地域に根付いた生活ができるように努めています。近隣の方との挨拶や、触れ合いを積極的に行えるようにしています。また、外部のボランティアの受入も行っています。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	定期的な往診により、ご利用者の体調管理に努めています。体調に変化があれば、すぐさまかかりつけ医の指示を仰ぐようにしています。	利用者全員が協力医療機関の内科医の往診を月1～2回受けています。入居前のかかりつけ医を受診する場合は、家族対応となっています。往診前日に利用者の健康状況をファックスで医師に連絡し、受診時の医師の指示は書面でもらっています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	毎週、看護師に訪問してもらっています。その際、必要に応じて医療的ケアをお願いしたり、医療的なアドバイスや指示を貰い実施しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、医療機関との情報交換を行っています。退院後は、ご本人様の状況を把握し、必要な支援を行えるよう努めています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	ご利用者様ご本人、ご家族様の意向を取り入れ、かかりつけ医との連携を図っています。ご本人様、ご家族様にとってどのような終末期を迎えるのが良いのか十分に考慮し、共有、実践できるように努めています。	重度化した場合や終末期について、入居時に事業所としてできることを説明し、本人と家族の意思を確認しています。本人の状況の変化に応じ、医師や家族との話し合いを重ね、方針を共有しています。見取りのチーム支援について、所内研修で話し合っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急連絡網を作成しています。また、ご利用者様一人一人の、緊急連絡シートを作成しています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	火災を想定した避難訓練を、消防署の協力を経て実施しています。	年2回避難訓練を行っています。消防署の指導で、火災時には階段を使わず、一室に集合して救助を待つことになっています。全職員が役割を決めて「災害図上訓練」を行い、各自の災害時の具体的な行動の確認や、安全な避難について検討しています。	法人で一括購入した災害備蓄を保管しています。今年度も引き続き備蓄品の整備を行っており、備蓄リストを作成する予定となっています。今後の整備が期待されます。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	ご利用者様一人一人の個性を理解、尊重し、個々にあった声かけや対応を心がけています。第三者の前で、プライバシーを損ねる発言、介護のないよう常に意識しています。	一人ひとりの生活歴を尊重し、気持ちに寄り添った対応ができるように配慮しています。法人研修や所内研修で、高齢者の心身の特徴、虐待防止、接遇等について話し合っています。ユニット入口や玄関は昼間は施錠せず、外出を希望する利用者には職員が付き添っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	状況に応じて複数の選択肢を提案し、ご利用者様一人一人が自己決定できる場を作っています。また、日常会話の表情や態度に現れる要望には、できる限り速やかにお応えできるよう心がけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	ご利用者様一人一人の生活ペースを大切に、職員の都合で行動を決めたり、押し付けたりしないように心がけています。集団である為、時には希望に添えない時もありますが、体調や想いを考慮し、できる限り希望にそように支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	定期的に理容サービスを利用しています。洋服、アクセサリ等は、ご利用者様自身で選び、職員はその服装に適した援助を行います。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	ご利用者様一人一人のスキルや特技を活かし、野菜を切る、副菜をもる、食器洗いなどしています。誕生会、行事、イベントを取り入れ、好みを把握し、楽しむ場を提供しています。	食事は職員が交代で作っており、利用者ができることを手伝っています。食堂のテーブルで、職員と会話しながら野菜を刻んだり、盛付をしている姿が見られます。近くの弁当屋にみんなで好きな物を買に行ったり、回転寿司店などで外食する日もあります。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量、水分量を記録しています。看護師、医者と情報を共有し、一人一人に適した提供を心がけています。食事は施設内で手作りし、常に栄養バランスを意識し提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	下膳したタイミングで声かけをし、介助の方は誘導して口腔ケアを実施しています。必要に応じて、歯科往診も行っています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	トイレの間隔があいた時はそっと声をかけたり、失敗を減らしおむつの使用量を減らすよう努めています。個人差もあり、プライバシーに気を配り、トイレで排泄する支援を行っています。清潔に保てるよう、臀部等に薬を塗布することもあります。	ほとんどの利用者が、トイレでの排泄ができています。一人ひとりの排泄のパターンを把握し、なるべく自発的にトイレに行けるように配慮しています。誘導する時には、プライバシーに配慮し、さりげない支援を行うようにしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	毎日の水分量、食事の質、食事量を把握しています。排便のない時は、体操やマッサージを行います。それでも排便のない時は、往診で医師の指示を受け、便秘薬でコントロールをします。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	リラックスできる様ゆったりと入っていただき、コミュニケーションの場に活かしています。洗体等に関しては声をかけ、自分でできる喜びを味わっていただきます。皮膚の状態等も記録に残します。	入浴は週2回の予定表を作成していますが、個々の希望に応じて入浴日や時間を変更しています。機械浴にも対応しています。季節に応じて、暖房や扇風機で浴室や脱衣所の温度調整をおこない、入浴を楽しめるように支援しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	日常生活の中で個々に観察し、ご利用者様一人一人にあった支援を心がけています。落ち着かない様子の時は傾聴し、空腹時には暖かい飲み物を提供したりして、安心して落ち着けるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	長い間で体調が変化し、服薬が合っているか目を向けて観察しています。往診時は医師への伝達も行います。しっかり服薬されるように、最後まで見届けます。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	個人の力に合わせて自立できる様に支援します。ご利用者様同士仲良く協力し、笑顔あふれる元気なホームになれるように心がけています。特に運動を兼ね散歩し、心身の健康を図っています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	日中の穏やかな時間帯に、定期的な外気浴を行っています。今はコロナ対策で自粛していますが、ペット売場や花屋に行き、地域交流を深めるよう努めています。	天気の良い日は、事業所の周りの住宅街を散歩したり、近隣の小学校まで歩いています。近隣のスーパーで、菓子や日用品の買い物を楽しむ利用者もいます。季節ごとに、花見やサツマイモ掘り、初詣などの外出支援の予定を立てています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	管理能力のあるご利用者様には、実際に所持していただき安心感を与えています。また、ご利用者様間の金銭トラブルを避けるため、職員と一緒に金銭の確認を定期的に行っています。コロナで自粛していますが、買い物レクを企画しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	大切なご姉妹から手紙が来たりしています。暑中見舞いをかねて手紙を出したり、近状報告を支援しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご利用者様が作った作品、梅や桜、鯉のぼり、雪だるま等、フロアに飾ったり、七夕の際には実物の笹を手配するなどして、季節感を味わっていただけるように努めています。	事業所内はバリアフリーで、利用者の動線に物を置かないように配慮しています。壁面には、折り紙やぬり絵などの利用者の作品が飾ってあります。リビングは、エアコンや空気清浄機などで温度や湿度に気を配り、手すりや家具類を消毒して、快適で清潔な環境にしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	フロアの席替えをする際、気の合う同士になるように配置しています。また、手すりが必要なご利用者様には、手すりが近くなるように、席の配置の工夫をしています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	日常生活でよく使う物には、ご利用者様の意向を合わせたうえで、手の届きやすい場所に置くように、配慮しています。	各居室には、洗面台と引出し付きのクローゼットが設置されています。利用者は、タンスやテレビなどの好みの物を活かして居心地の良い部屋にしています。居室担当制をとっており、部屋の整頓や清掃は、担当の職員が利用者の意向に沿って行っています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	転倒防止、歩行の邪魔にならないように、フロア、居室、トイレ等の通路の足元には物を置かないようにしています。また、フロアの机と机の間隔をできるだけ広めにとり、歩行の妨げにならないように設けています。		

事業所名	アクア上鶴間グループホーム
ユニット名	2F

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	毎朝、朝礼で理念等を唱和し、話し合う時間を共有しています。 施設内の会議やフロアごとのミーティングを実施し、何ができるか理念を統一しています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	コロナの影響で前の道路で歩行訓練をしている。ご近所のお子様や犬の散歩中に挨拶する事で立ち止まって話しをして下さる レクリエーションではご近所のお弁当屋さんに行った		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域の方との交流は課題としている 今は特にコロナの影響で企画も難しい		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議では、利用者様、ご家族様も参加して下さい 動き出したところでこれもコロナの影響で自粛している		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	施設長中心に動き始めようとしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束について度々研修がひらかれる 新しい利用者様が外に出してしまう初日、勤務のスタッフで会議を開き記録に残して施錠した。これからも拘束とはを考え勉強が必要と考える		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待はもちろん、度々ミーティングで尊厳とは何かを考え話し合っている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	権利擁護の制度理解については、管理者、一部の職員のみになっている。研修を開催し全職員が理解し対応出来るようにとかがえている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約の際には、文章に基づき実例や理解しやすい表現等を用い説明している また、出来ること出来ない事も契約時に伝え了解いただけている 不明点ができた場合には遠慮なく聞ける雰囲気づくりをしている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	日々の生活や面会の際にも随時要望を聞き入れる様な雰囲気づくりを心がけている 運営推進会議には多くの方が主席出来る様に日程調整をし事前案内している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月一回のフロア会議には管理者も必ず出席し情報提供や意見交換を行っている また年二回個人面談時にも意見を表出来る様にかかわっている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	本社総務と連帯を図り働きやすい職場環境を目指している		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	個人面談時等、本人希望も聞き入れながら一人一人の職員にあった研修をえらび参加出来る様にしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	行政主催や地域の連絡会等に参加しサービスの質向上を図っている		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	本人が今何を求め何を考えているのか、行動や話しをよく聞き、本人を理解しようと定めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	家族も本人も考えに違いがあり、それぞれの想いをしっかり受け止め要望に答え対応している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談時に家族や本人が何が必要かを見極め出来る限りの対応している		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	年長者の利用者から沢山のまなびがあり職員の鏡になってもらっているほめてくれたり声かけをしてくれたり、お互いが穏やかなせいかつが出来る様、いい関係を築いている		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族との情報交換で利用者の今の様子を詳しく伝えたり、家族の想いを聞いたり、本人と家族との潤滑油になるように心掛けている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	昔の職場でのポジションなど話してくれたり、スポーツをやった相手との出来事など思い出をそのまま受け止め長期記憶の支援に努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	不安になっている利用者様の話を聞いたり相談に乗り、職員が間に入って支援している		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	これまでの生活環境を尊重し情報交換しながら支援するように努めている		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の生活の中で一人一人の想いを受けとめるよう努めている。利用者の意向を職員間で話し合う。ご家族様と話し情報を得るようにしている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	以前までどのような生活をしてきたかを本人や家族から伺い、本人らしく生活していただけるように努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日常生活を送るうえで入居者の出来る事を行っていただき、リズムを把握するよう努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ケアプランにそって行っている。日々新たな気づきがあり職員全員がカンファに主席出来る様に行い意見交換を行っている。ご家族様が訪問時意向を伺い、介護計画に反映している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	利用者の様子などを、連絡ノート、気づきノートに記録し勤務前に確認を義務付けている。申し送りも行い情報を共有している。情報共有しチームケアでいかすことが今の課題。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	開放的で訪問しやすい事業所を目指している。自由に行き来出来ることで、ご本人の生活にメリハリが出来閉鎖感のない支援が出来るとよいと考えている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	近隣の買い物や散歩を通して地域に根付いた生活ができるように努めている。近隣の方との挨拶や触れ合いを積極的に行えるようにしている。また、外部のボランティア受入も行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	定期的な往診によりご本人の体調管理に努めている。体調に異変があればすぐさまかかりつけ医の指示を仰ぐようにしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	毎週看護師に訪問してもらっている。その際必要に応じて医療的ケアをお願いしたり医療的なアドバイスや指示を貰い実施している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはいりょうきかんとの情報交換を行っている。退院後はご本人の状況を把握し必要な支援を行えるよう努めている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	ご本人、ご家族の意向を取り入れかかりつけ医との連携を図っている。ご本人、ご家族にとってどのような終末期を迎えるのが良いのか十分に考慮し、共有、実践出来るように努めている		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急連絡網を作成している。また入居者の方、一人一人の緊急連絡シートを作成している		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	火災を想定した避難訓練を、消防署の協力を経て実施している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	利用者一人一人の個性を理解、尊重し個々にあった声かけや対応を心がけている。第三者の前でプライバシーを損ねる発言、介護のないよう常に意識している		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	状況に応じて複数の選択肢を提案し利用者一人一人が自己決定できる場を作っている。また日常会話の表情や態度に現れる要望にはできる限り速やかにお応えできるよう心掛けている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	利用者一人一人の生活ペースを大切にし職員の都合で行動を決めたり、押し付けたりしないように心掛けている。集団である為、時には希望に添えない時もあるが、体調や想いを考慮し出来る限り希望にそうように支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	定期的に理容サービスを利用している。洋服、アクセサリ等は利用者自身で選び職員はその服装に適した援助を行う		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	利用者一人一人のスキルや特技を活かし野菜を切る、副菜をもる、食器洗いなどしている。誕生会、行事、イベントを取り入れ好みを把握し楽しむ場を提供している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量、水分量を記録している。看護師、医者と情報共有し一人一人に適した提供を心掛けている。食事は施設内で手作りし、つねに栄養バランスを意識し提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	下膳したタイミングで声かけし、介助の方は誘導して口腔ケアを実施している。必要に応じ歯科往診も行っている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	オムツの使用量は使用した量もスタッフで共有し減らすよう心掛け、間隔があいた時はそっと声掛けを行っている。個人差もありプライバシーに気配りしトイレで排泄する支援を行っている。清潔に保てるよう臀部等に薬を塗布することもある		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	毎日の水分量、食事の質、食事量を把握。排便のない時は体操やマッサージを行う。往診で医師の指示を受け便秘薬でコントロールをしている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	リラックス出来る様ゆったりと入って頂きコミュニケーションの場にかしている。洗体等に関して出来ることは声かけし、自分で出来る喜びを味わって頂く。皮膚の状態等も記録に残す。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	日常生活の中で個々に観察し本人らしい支援を心掛けている。落ち着かれないときは傾聴し、空腹時には暖かい飲み物を提供し安心して落ちつけるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	長い間で体調が変化し、服薬が合っているか目を向けて観察している。往診時は伝達も行う。最後まで服薬されるように見届ける。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	個人の力に合わせ自立出来る様に支援する。利用者同士、仲良く協力し笑顔あふれる元気なホームになれるように心掛ける。特に運動を兼ね散歩し心身の健康を図っている		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	日中の穏やかな時間帯に定期的な外気浴を行っている。今はコロナ対策で自粛しているが、ペット売場や花屋に行き地域交流を深めるよう努めている		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	管理能力のある利用者には実際に所持して頂き安心感を与えている。また利用者間の金銭トラブルを避けるため職員と一緒に金銭の確認を定期的に行っている。コロナで自粛しているが買い物レクを企画している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	大切な姉妹から手紙がきたりしている。暑中見舞いをかね手紙をだす近状報告を支援している		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	利用者が作った作品、梅や桜、鯉のぼり、雪だるま等、フロアに飾ったり、七夕の際には実物の笹を手配するなどして季節感を味わって頂けるように努めている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	フロアの席替えをする際、気の合う同士になるように配置している。また手すりが必要な利用者には手すりが近くなるように席の配置の工夫している		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	日常生活でよく使うものにはご本人の意向を合わせたうえで、手の届きやすい場所に置くように配慮している		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	転倒防止、歩行の邪魔にならないようにフロア、居室、トイレ等の通路の足元には物を置かないようにしている。またフロアの机と机の間隔を出来るだけ広めにとり歩行の妨げにならないように設けている		

2020年度

事業所名 アクア上鶴間グループホーム

作成日： 2020年 11月 12日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	48	開所2年目に入り、自立支援に向けた介助が出来ていないところが見えてきた。	入居者様の能力に応じ、やれる事を増やす。	スタッフ間でケアプランを共有し、時々イベントにお手伝いを取り入れ楽しむ事でスタッフは出来ることをみつけて、張り合いのある生活の支援をしていく。	12ヶ月
2	50	新型コロナウイルスの影響で、買い物に出られていない。	健康第一に繋がるが、お金を使う場を設ける。	近所の自動販売機や、お菓子を売っている倉庫や、お弁当屋さんに出かけ買い物をする機会をつくる。	6ヶ月
3	2	新型コロナウイルスの影響で、地域の交流も難しい状況となり、地域との繋がりが少ない。	ご近所様と顔見知りになる。	新型コロナウイルスが落ち着くまで、距離をとりながら、全員が週に2回は散歩や近所の清掃を出来る様に支援する。	12ヶ月
4	51	大切な人に電話したり、手紙等のやり取りの場がない。	手紙を出す機会をつくる。	年賀状・クリスマスカード・暑中見舞い等、季節ごとに手紙をだす。	12ヶ月
5					ヶ月